

あおくんときいろちゃん

レオ・レオーニ 作

藤田圭雄 訳



至光社 1967年 1200円

あおくんときいろちゃんは大のなかよしです。ある日、あおくんは、きいろちゃんと遊びたくてあちこち探し、まちかどでばったり出会います。うれしくて抱き合うと、2人がひとつになってみどりの子になりました。遊び疲れて家に帰ると、どちらの家でもうちの子じゃないよと言われてしまいます。ちぎり紙の単純な図形だけで構成された絵本です。はっきりした色づかいと色の変化が印象的です。

アンガスとあひる

マージョリー・フラック 作・絵

瀬田貞二 訳



福音館書店 1974年 1100円

アンガスはしりたがりのこいぬです。前から知りたかったガーガーというやかましい音の正体を知るために、アンガスは垣根の外へ出て、2羽のあひるに会いました。追いかけるうちに逆に追いかけれ、必死に家に逃げて帰ります。カラーとモノクロの絵が交互に配置されており、動物たちの姿が生き生きと描かれた古典的絵本のひとつです。続編に「アンガスとねこ」「まいごのアンガス」があります。

いたずらきかんしゃちゅうちゅう

バージニア・リー・バートン 文・絵

むらおかはなこ 訳



福音館書店 1961年 1100円

ちゅうちゅうは黒いぴかぴかのちいさな機関車です。ある日ちゅうちゅうは、客車や貨車を引かずに走りたいたいと思い、隙を見てひとりで逃げ出しました。信号も踏み切りも無視し、わきめもふらずに進むうち、とうとう使っていない古い線路で、座りこんでしまいます。文章も絵の一部として配置されています。画面一杯に黒1色の木炭で描かれたスピード感のある絵で、細部も楽しい。長く読み継がれている絵本です。